

フランス語学科企画コンサート 「Balades musicales 響きあう音・色・言葉」を開催

6月18日、天野貞祐記念館大講堂において、外国語学部フランス語学科企画コンサート「Balades musicales 響きあう音・色・言葉」が開催された。当日は約500名の来場者が会場に詰めかけた。1860年代のビゼーから、ドビュッシーやラヴェルを経て、1950年代のプーランクまで、フランス近代音楽の多様な展開を示す作品の数々が、田中沙友里さん(メゾソプラノ)、白尾彰さん(フルート)、野田清隆さん(ピアノ)、エルデーディ弦楽四重奏団の皆さんにより演奏された。

また今回は歌曲も取り上げられ、ヴェルレーヌの詩「光背を帯びた聖女」のフランス語(ジョルジュ・ヴェスィエールさん)と日本語(長岡立子さん)の朗読に続いて、フォーレによる同名の歌曲を田中沙友里さんのメゾソプラノで聞くことができた。このほか、同時代の絵画作品のスライド映写も行われ、充実したコンサートは盛況のうちに幕を閉じた。



交流文化学科主催講演会開催

6月8日、国連広報センター所長、根本かおる氏の講演会「国連世界難民の日を前に：今こそTOGETHERの精神を！」が交流文化学科主催で開催された。

根本氏は、長く国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) に勤務し、ジュネーブ本部と世界各地で難民支援の経験を持つ。講演会では、移民・難民の現状と、国連や他の国際機関、民間による支援活動がわかりやすく説明された。根本氏は、第二次世界大戦以降、難民の数が過去最大になっていることを憂慮し、将来を見据え、持続可能な社会を構築するための問題を提起した。さらに、聴衆に向けて、一人ひとりにできる小さなアクションが、誰も置き去りにされることなく、平和に住める世界へ繋がることを強調し、思いやりと行動力を持つことの重要性を説いた。

(学生記者／保科)



第14回国際交流フェスティバル 「草加国際村一番地」開催

6月18日、第14回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」(主催・草加市国際交流協会、共催・獨協大学)が、本学キャンパスで開催された。

世界各国出身の草加市民が、本学留学生とともに、自国の文化、料理、音楽、ダンスや民族衣装を披露して、来場者との交流を深めた。なかでも「ワールド・ランゲージ」コーナーでは、各国の言語を実体験でき、多くの来場者の注目を集めた。

いっぽう、本学学生は、ジャグリング、フリーマーケット、研究発表や物販、フェアトレードカフェ、お菓子の家づくり等で、催事に彩を添えた。

当日は、天候にも恵まれ、老若男女約6000名の来場者が会場を訪れ、年に一度の世界一周を堪能した。



第44回創造祭開催

5月31日から6月3日の4日間、第44回創造祭が『文花齊放』をテーマに掲げ開催された。創造祭とは、文化系の団体が中心となって、展示発表、講演会、演奏会などを行う大学祭。

開会式では、OLFMがアカペラコンサートを行い、書道研究会が書道パフォーマンスを披露した。創造祭期間中は、混声合唱部のコンサート、映画研究会の自主映画上映、イベントサークルのApril Year Projectによる階段アート作品のサプライズ展示など、多くのイベントが行われた。

創造祭実行委員長の田部井姫香さん(律2年)は「無事に創造祭を終えることができたのは、皆様のご助力があってこそだと深く感謝いたします。今回の反省点を今後につなげ、更なる向上を目指して創造祭実行委員会一同精進いたしますので、暖かい目で見守って頂ければ幸いです」と語った。

なお、次号の10月号では学生記者の取材による特集記事を予定している。

